



全国の環境問題を解決に導く人材を発掘し、結びつけるプロジェクト (熱源プロジェクト) (海と日本2021) (一社) 持続可能な環境社会を目指す人材ネットワーク

2021年度 成果

2021年度は全国の熱源を巻き込み、「熱源同士のコミュニティ形成」、「未来の熱源の発掘・育成」を強化した。未来の熱源として全国に「海のキッズサポーター」を誕生させ、次世代リーダーの育成のスタートを切ることができた。また、熱源同士の意見交換の場として熱源サミット内においてグループディスカッション、新たなムーブメントへ向けての活動発表が実施できた。

海のキッズサポーター全国大会においては、優秀な成績を収めた子どもが熱源サミット内で熱源（大人）へ向けて「未来の海に向けた提言」を行った。未来の海を担う熱源（大人世代）と海のキッズサポーター（次世代）などが関わり合う、学びと創造の場の提供について更なる展開が模索できた1年となった。

海と食を考える 熱源熱中授業

事業趣旨 本授業では地元の海を知り尽くす“熱源”を講師に迎え、日本各地の海の“今”を伝える特別授業です。同時に、スシロー(株式会社 あきんど)とタッグを組み、子どもたちが大好きなお寿司を通して「海と食」について考えます。子どもたちと一緒に、「今、自分たちが海にできることは何か」を考えるきっかけを作り、次世代のリーダー育成を目指します。

開催県	実施日	熱源講師 ※敬称略	参加者数
長野県	3月23日(水)	株式会社Gab クリエイティブディレクター 北村優斗	14名
福岡県	3月29日(火)	株式会社ベンナーズ 代表取締役 井口剛志	15名
静岡県	3月31日(木)	特定非営利活動法人サンクチュアリエンピーオー 馬塚丈司	10名
島根県	4月1日(金)	NPO法人隠岐しぜんむら理事長 深谷治	13名
愛媛県	4月5日(火)	まつやま里島ツーリズム連絡協議会 会長 田中政利	9名
滋賀県	4月6日(水)	琵琶湖のお魚博士 黒川琉伊	11名

アンケート抜粋

- ・未利用魚という言葉を知った。また海プロの活動に参加したい
- ・海にごみを捨てないようにして、マイクロプラスチックを拾って海をきれいにしていきたい
- ・今までにない発見やお寿司、SDG sを通して海をさらに守りたい気持ちになった
- ・日本のごみが世界中にあることに驚いた
- ・砂浜や海岸にもたくさんの生き物や植物がいることを知ることができた
- ・海の問題についていろいろな人に知ってもらい、みんなで関心を持てるようにしたい
- ・環境問題をどんどん解決して魚を増やしたいと思う
- ・学校では習わない事、不思議なことをたくさん知れてよかった
- ・いつまでも寿司が食べられるような未来を作りたいと思った
- ・怒和島の海藻類が減っていることを初めて知った
- ・魚のことを調べるだけでも環境に役立つきっかけになることもあるのだなと思った
- ・家に帰って魚のことをもっとよく知りたいと思った
- ・海から店に運ばれるまでの過程を詳しく解説されていてとても分かりやすかった
- ・湖魚の味や色、特徴が多様多様だなと思った
- ・天然の魚と養殖の魚の違いについて知ることができてよかった



成果と課題

- 参加動機は「お寿司」や「お魚」だったが、乱獲や養殖、海洋資源を守るために自分たちに何ができるかというところまで考え、持ち帰る良い機会に繋がった。また、アンケートからは子どもたちの取り組んでみたいことなどがリサーチできる良い機会となった。
- 企業と熱源のコラボレーションは有意義な成果があったと感じる。座学のみではなく、フィールドワークや創造する時間を設けることでより一層、子どもたちの世界が広がる可能性が感じられる。次世代リーダーの育成、という観点から企業や専門家などの接点を多く設定したい。

海のキッズサポーター全国プレゼン大会

事業趣旨	全国の小学4年生～中学3年生までを対象に、未来に向かって海を守っていく “未来の熱源“を発掘し、 ”海のキッズサポーター“に認定するものです。 海のキッズサポーターについては、今後、未来の熱源として活動・活躍できるように育成サポートを実施していきます。
------	---

開催日時および会場	応募期間/2021年5月29日～6月30日 全国大会/2021年10月3日(日)@機械振興会館 B2ホール
-----------	--

参 加 人 数	▶ 出場者/7組9名（3名不参加） <応募総数96件> ▶ 関係者および観覧者/68名 ▶ 取材メディア/5局+公式記録
---------	--

エリア	名前	年齢	発表タイトル
北海道	佐々木凱吏	11歳(6年生)	サケの一生と食物連鎖
千葉県	石野立翔	9歳(4年生)	天然魚と養殖魚のちがい
東京都	住吉拓己・真人	12歳(中1)・10歳(5年生)	たく＆まこ おもしろ日めくりカレンダー
東京都	鈴木瑛梨花	10歳(6年生)	海洋プラスチック問題
滋賀県	黒川琉伊	13歳(中2)	琵琶湖の魚
兵庫県	大角一尋・涼斗	14歳(中2)・13歳(中1)	俺たちとカニの2190日～Crab Kingdom～
鹿児島県	中村大胡	11歳(6年生)	おいしい海の生き物が育つ錦江湾の魅力
沖縄県	安藏志紋 ※欠席	13歳(中1)	沖縄の海の多様性と問題
岡山県	寺元蒼空 ※欠席	12歳(中1)	海のゆりかご
新潟県	土田夢乃 ※欠席	9歳(4年生)	海ごみ問題

賞	名前	発表タイトル
最優秀賞	あいおいカニカニブラザーズ 大角 一尋・大角 涼斗	俺たちとカニの2190日～Crab Kingdom～
優秀賞	住吉 拓己・住吉 真人	たく&まこ おもしろ日めくりカレンダー
日本財団 未来の熱源賞	鈴木 瑛梨花	海洋プラスチック問題



成果と課題	●未来の熱源とも言える「海のキッズサポーター」について、対象を全国の小学4年生～中学3年生とし発掘。活動や思いを発信する場を創出することができたことは熱源プロジェクトの裾野の広がりとなった。 ●熱源と継続的に連携し、取り組みを発信したり、活動をともに深めていくことが課題。海と日本プロジェクト全体のネットワークをより熱源人材にとっての“メリット”として活かしながら継続的なサポートをしたい。 ●教育機関と連携し、海洋をテーマにした学習プログラムや体験プログラムを実施し、子どもたちの探求心を深掘りしていくサポートの実践が求められる。	
-------	---	--

熱源サミット分科会

事業趣旨	2021年11月に開催された「熱源サミット」において出席した熱源をテーマごとにマッチングさせ、意見交換の場を提供することで各自の課題解決および新たな事業の創造につなげる。
開催日時	2021年11月12日 於 熱源サミット（島根県出雲市）
参加人数	▶ 38名
分科会プログラム	・分科会__新たなムーブメント創出に向けたグループごとのディスカッション ・活動発表プレゼンテーション__チーム発表:今後の活動目標や取組みについて ・海野常務より総評

テーマ別マッチング一覧・発表テーマ

海洋資源

TEAM-A



北前船でつながる地域連携事業

女性/研究/実践

TEAM-B



コンテンツ発信の強化に向けて
 ～単独ではなく、連携を強化～

自然体験

TEAM-C



中間支援の役割と会員サロンによる
 知識の共有

環境教育

TEAM-D



無関心者層を対象にした環境教育活動の充実
 ←楽しさの共有（ゲーム性）

マリンスポーツ

TEAM-E



ビーチクリーンのゴミ処理問題の解決に向けて
 …エアタグで見える化

食/食文化

TEAM-F



大手記号との連携をめざした
 大麦ストロー普及に向けた事業計画

地域連携

TEAM-G



海援学園の設立…すべての人に「海」を学ぶ選択枝
 を提供するために

人/コンテンツ

TEAM-H



海の自分事化…環境ゲームを活用した環境教育

熱源サミット・分科会

事業趣旨	全国の「熱源」を一堂に集め、自らの強み、弱みを理解し、活動をより深く、広くするための具体的なスキルについて学ぶ、参加型のワークショップです。さらには、普段は接点のない熱源同士をテーマごとにマッチングさせ互いの強み、弱み、ワークショップで得たヒントを元に意見交換の場を設け、翌日の分科会に繋がります。 この2日間のプログラムが熱源にとって、概念や方法論ではなく、『明日からできる実践テクニック』を習得し、新たなムーブメントに向けてのシナジー効果を得る機会となることを目指しています。
開催日時および会場	2021年11月11日(木)～12日(金) 島根県出雲市 ・大社文化プレイス・出雲ロイヤルホテル
参加人数	▶ 130名（熱源38名，エリア事務局関係者46名，その他助成事業関係者他、約40名）
内容	▶ ワークショップ/自らの強み、弱みを理解し、活動をより深く、広くするための具体的なスキルについて学ぶ、参加型のワークショップ。 ▶ マッチング交流会/普段接点のない熱源同士をテーマごとにマッチングさせた意見交換の場 ▶ 分科会～活動発表/マッチングされた熱源同士が新たなムーブメントを生み出せる場とするために互いの弱み・強みを元に新たな事業を創造し、発表。

量的成果（事業の拡がり）	質的成果（次なる展開への芽）
熱源ネットワークの強化	熱源同士の長所短所を踏まえたマッチング
熱源の認知度の拡大(WEB配信等による発信の強化)	熱源の知見の共有とスキルの向上
海のキッズサポーターからの提言と連携	熱源同士の連携による新たな事業プランの創出



全国61名の「熱源」を神在月の出雲に一堂に集め「熱源サミット」開催。
熱源が自らの強み、弱みを理解し、活動をより深く・広くするための具体的なスキルを参加型のワークショップで議論。



熱源同士が、自らの長所・短所を自己分析。長所を結びつけての新たな事業の創出の議論を始めたことに加え、短所を補完し合うことで、既存の熱源人材の取り組みのレベルアップにもつなげた。



熱源サミットに「海のキッズサポーター」を招集し、提言発表を行った。「海のキッズサポーター」＝「未来の熱源」と定義し、大人の熱源の活動や思いを受け継ぐ受け皿(苗床)を構築した。

成果と課題	●熱源を一堂に集めて、リアルなコミュニケーションの場を作ったことで、狙い通りのシナジー効果を生み出し、次につながる活動計画の芽も生まれた。一方で、熱源人材の活動内容の幅が大きく、活動実績のレベルにも差があり、全ての人を満足させるワークショップの実施やノウハウの展開が難しかった。今後、熱源人材の年齢構成をより幅広くすることで、活動に広がりを出す一方で、個別の事業が自立・自走化するサポートも進めていく。また、苗床となるキッズ世代の育成を行い、ネットワークを構築していく。
-------	---